THE Y'S MEN'S CLUB OF KUMAMOTO

ひがし

2016 5

WE ARE FAMILY

チャーター 2004.4.25 No.145

TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPAINES EVERY RIGHT

C/O KUMAMOTO YMCA NAGAMINE FAMILY
3-1-107 NAGAMINE MINAMI KUMAMOTO 861-8039
TEL 096-385-0676 FAX 096-385-0649

第1例会 第1月曜 熊本テルサ(19:00～21:30)
第2例会 第3土曜 ながみねＹＭＣＡ(17:00～19:00)

国際会長 主題 ：信念のあるミッション スローガン：恵みを数えよう Wichian Boonmapajorn（タイ）
アジア会長 主題 ：愛をもって奉仕をしよう スローガン：まず自分から始めよう Edward K. W. Ong（シンガポール）
西日本区理事 主題 「あなたならできる！きっとできる」ー生きる しなやかに さわやかにー 遠藤 通寛（大阪泉北）
九州部部長 主題 「九州から輝くワイズダム」 五嶋 義行（阿蘇）

熊本ひがしクラブ
第12代会長 田上 裕章

会長主題：絆 地域との絆 会員間の絆

防災まつり 2016（3月27日）

平成 28 年熊本地震（5月1日の片づけ）

人を信じ、絆を結び合わせてこの苦境を乗り越える！

5月 強調月間

ＬＴ
リーダーシップトレーニング

今、このとき苦難のなかにいます。先の見通せない闇のなかにいると。

自分が苦しくならないと、他者の痛みはわかりません。いや実は、わたしの苦しみと同じだと思っていても、多分少しずつ違うのです。人のいたみを「わかる」ということは、できないのかも知れません。

人の苦しさを「わかれない」ことを自覚し、肝に銘じた上で、それでも人により添うことを大切にしたいと思います。

（平山美保）

今月の聖句

この貧しい人が呼び求める声を主は聞き
苦難から常に救ってくださった。
主の使いはその周りに陣を敷き
主を畏れる人を守り助けてくださった。
詩編34・7～8

神は言われた「わたしは必ずあなたと共にいる。」
出エジプト記3・12

4月例会出席記録	在籍会員数 28名	第1例会 18名	第2例会	メイカップ	
	例会出席率 64.2%	出席総数 18名	ﾒﾈｯﾄ、ｺﾒｯﾄ 9名		

会長通信

これまでの絆結び、このときこそ

会　長　**田上　裕章**

この度の熊本地震に際し、亡くなられた方に心より哀悼の意を表しますとともに、被害にあわれた皆様方に心よりお見舞い申し上げます。

会員の皆様の無事は確認いたしましたが、各自自宅や職場は被害を受けておられることと思います。

宮﨑ワイズは避難所となっている益城町総合運動公園で頑張っておられます。また、神谷ワイズもこれを書いている時点では避難所におられます。宮本ワイズは益城町の実家に大きな被害を受けられております。

各自の復旧や日々の仕事を確かなものとして、助け合って復旧復興に当たれればと思います。助けが必要な場合は、遠慮なく教えて頂きたいと思います。

4月14日の第一震、15日の本震の後、わたしたちの拠点・ながみねファミリーYMCAは緊急の自主避難場所となりました。

中村館長、桑原副館長をはじめ、避難されていた横田ワイズご一家や菅ワイズご一家は、ルール作り他避難所の運営に奔走されました。

また、岩本副会長ご夫妻や阿蘇の藤本義隆ワイズ、平山ワイズ、東ワイズにも差し入れやお手伝いを頂いたということで、皆さん被災されているなか、手探りの状態だったと思いますが、一週間緊急避難所としてながみねが機能しました。携わった方々に心よりお礼を申し上げます。

DBCクラブである京都めいぷるクラブ様にも、山川会長様はじめ役員の皆様のご尽力で、早々に義援金を頂きました。そのうえ、山川会長より力強い見舞い文も頂きました。心より感謝申し上げます。

わたしは、山川会長への返礼文でこう書きました。

「必ず乗り越えて熊本を震災前よりもっと良い街にしてめいぷるクラブの皆様をお招きすることを目標に、今後頑張って参ります」

今、わたしの心にあるのは、この一心です。

阪神大震災の時にも、ラジオパーソナリティがこういっていました。

「今、神戸はこんな状態でしょう？これが立ち直る姿なんて想像できないでしょ？
もね、10年経って見てください。神戸はきっと、もっと素敵な街になってますから」

各自があきらめず、その持ち場で息長く頑張っていけば。きっと熊本も出来ると思うのです。ここまで、他クラブも含めてワイズの凄さを実感することが多いです。この災いにあった時、我々がワイズであったのは、ひょっとしたら運命なのかもしれません。

熊本には、「でけたしこ」という使い勝手のいい言葉があります。

無理せずでけたしこ。助け合って、頑張っていきましょう。　　(2016.4.25)

京都めいぷるクラブ
山川新一会長からの見舞文

(4月18日付)

この度は、平成28年熊本地震で被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

そして京都めいぷるワイズメンズクラブ一同、一日でも早い復旧をお祈り申しあげます。

まだまだ、余震の続くなかではありますが、皆さまご無理ないように、また、お力を落とされないように復旧にむかって ください。

遠く京都の地からではありますが、めいぷるクラブ一同、熊本の兄弟の心に寄り添い、いつも一緒にある事をお誓い致します。

また、何か困った時はご 相談ください。ワイズの魂にかけて協力致します。

京都めいぷるワイズメンズクラブ
33期会長 山川　新一

「YMCA・ワイズの源流」の学び！ ㉞

津田　仙（つだ　せん）

1837 年8月6日（天保8年7月6日）～ 1908 年4月 24 日
農学者、学農社の設立者。キリスト者。
青山学院、筑波大学附属盲学校の設立に関わる。日本で最初の通信販売を行った人物でもある。同志社大学創始者・新島襄、人間の自由と平等を説いた東京帝国大学教授の中村正直と共に“キリスト教界の三傑”とうたわれた。
下総国佐倉藩士（千葉県佐倉市）小島善衛門良親の四男として生まれる。18 歳の時、江戸、横浜で蘭学、英語を学び幕府の通弁、通訳に従事。農学の専門家となり、1861（文久1）年、津田初子と結婚して津田姓を名乗る。
1871（明治4）年、時の北海道開拓次官・黒田清隆の海外女子留学生募集に際し、当時わずか8歳の次女・津田梅子を応募させている。1873 年、ウィーン開催の万国博覧会に出席する農業事情調査の日本政府派遣団に加えられて渡欧。展覧会会場で聖書を見、ウィーンの優れた文物制度に触れ、深い感動を受けた。
帰国してアメリカ・メソジスト監督教会宣教師・ソーバ Jの人格に触れ、74 年1月3日妻と共に彼から受洗した。
1874 年「農学三事」を著す。
1875 年、麻布本村町の自宅内に、海外農業の日本導入とキリスト教精神による教育の徹底を目的とする学農社を設立。新農法の普及や人材養成にあたった。1875（明治3）年には、万博から持ち帰ったニセアカシヤの種を発酵させ、その苗を東京の大手町に植えた。東京初の街路樹。1881（明治9）年には、アメリカ産のトウモロコシの種を日本の農家に通信販売を始めた。日本での通信販売の最初と言われている。同社の実績はあがり、周囲からも高評価を得たが、農業に関する状況の変化により、設立後 10 年で廃校。
クリスチャンとしての津田仙の働きは、学生達にキリスト教を土台とした授業を授けた。ミッションスクールの設立にも協力し、盲人の教育にも力を注いだ。東京YMCAのアメリカからの教師受け入れ準備の「周旋委員」として活動している。
日本最初の公害運動といわれる足尾銅山の鉱毒問題の田中正造を助け、農民運動に力を注ぎ、禁酒運動に没頭し、禁酒運動家としても知られている。1909 年、麻布本村町の長女の婚家から鎌倉の自宅への帰途、車中で急性脳溢血により死去。

（文・企画　歌野清三）

メネットコーナー

平成 28 年熊本地震で被災された皆さまに心からお見舞い申し上げます。
今このときも、避難しておられたり、片づけなどにご苦労しておられる方もいらっしゃると思います。
ご家族の力だけで大変なときは、誰かに声を掛けてください。女性の手伝いが必要なときもあると思います。そんなときでも誰かに声を掛けてください。疲れもピークにきています。できるなら休みをとり、そして支え合っていきましょう。
５月１日、菅ワイズ宅の片づけをしました。体験を共有してみんなで話をすると、心も少し楽になると実感しました。決してひとりで抱え込まないで、遠慮せずに声を掛けてください。

（大澤玲子）

平成28年熊本地震　体験記

■大地震の前には意外な前兆現象が！　何と4月16日（土）未明の真夜中のマグニチュード7.3。震源地・熊本県西原村付近での震度7（古い家屋の30％以上が倒壊）の本震の前兆がそれより28時間前（4月14日（木）21：25頃）に益城町を震源地とする同じく震度7（マグニチュード6.5）の激震であったとは！　恐らく誰も予期できないことであったと思います。

■震源地に近い熊本市東区保田窪の我が自宅でも震度6強の激震に2度も恐怖のうちに揺さぶられ、命があって不思議なくらいの体験でした。地震には比較的強いと言われていた、いわゆるツーバイフォー工法の自宅でしたが、診療所目的（以前はクリニック開業）であったため建坪が大きいせいで重量が重く、一度目はなんとか耐えましたが、さすがに二度目の激震(地震モーメントの持つエネルギーで前震の20倍以上)で、1階は内外の壁に多数の亀裂が走り、基礎も一部破損し、多くのドアも吹っ飛び、室内はほとんどの家具、電化製品が転倒し、床は足の踏み場も無いほどに食器、書籍、食品、日用品装飾品等が散乱し、動線を確保するのがやっとでした。幸いに一家4人とペット犬一匹（ルツ）はけがも無く、16日は夜明けとともに取るものも取りあえず、ながみねファミリーＹＭＣＡに緊急避難した次第です。

■前震に襲われた14日（木）の夜は、ながみねファミリーＹＭＣＡで夜9時頃まで運営委員会。先般（3月27日）に開催した「防災まつり」（地域自治会と共催）なるものの評価も含めて、横田博運営委員長（クラブ直前会長）のもとに、次回からはもっと十分な予算を付けて防災に備えようと決議。帰宅の途につき、自宅で一息入れていた時に、防災訓練で体験した阪神淡路震災級の震度の起震車（消防署提供）体験以上の本物の激震に襲われ、その瞬間は動くことも出来ず呆然自失です。

■気がつくと幸いに停電もなく、目の前で激しく揺さぶられた家具も転倒も無く、書斎の書棚の一部が倒れ書籍が散乱する程度ですみ、その後の強めのいわゆる余震らしきものにおびえながらも夜明けを待つことができ、夜明けから後片付けに精を出した次第です。恐らく多くの被災者の方々も同じ思いと行動だったと思います。しかし、朝の報道で震度7の激震が益城町周辺を襲い、多くの家屋が倒壊し、10名を超える死者と多くの重軽傷者が出ていることを知り、ただ事ではないなとの思いに駆られました。まぁなんとか我が家は難を逃れたかと浅はかにも勘違いしながら、自宅復旧に一家で精を出した次第です。その間、気になり、ながみねファミリーＹＭＣＡの中村館長に状況を尋ねますと、何と横田ワイズ一家がＹＭＣＡに非難されていると知らされました。しかし、大事をとっての一時非難だろうと判断し、ＹＭＣＡにはいずれ様子を見に行こうか、との程度で自宅待機し、益城町の被災の状況に釘付けとなりながらその夜を迎えたのです。

■そして16日未明のマグニチュード7.3の本震です。みんな睡眠中で、寝込みを襲われるとはこのこと。再度の激しい揺れに数十秒間揺さぶられ、一家中に阿鼻叫喚。今度はただごとではない気配、すぐ停

平成28年熊本地震　体験記

電し真っ暗闇。手探りで懐中電灯を探し出し、一家の安否だけは確認するも部屋間の移動は全く出来ず、一息して携帯ラジオで熊本地方に震度７近くの激震再来を確認し、その後の強めの余震に「来た来た！」とおびえながらお互いに声を掛け合い、夜明けを待ちます。

■夜明けの薄明かりのもとに室内を確認すると、今度の被害は前震の比ではなく、家財道具すべてが転倒移動、床は文字通り足の踏み場無し。身の危険を感じながらも逃げ道を確保し、生活空間を少しでも確保するのがやっとでした。今度こそは避難所に一時逃避の必要性を感じ、近くの指定避難所の中学校に様子を見に行くと、既に多くの避難者が車で駆けつけ体育館校庭ともに一杯です。そこで我が家は横田ファミリーが避難中のながみねファミリーＹＭＣＡを思い出し、ペットもいるし、メネットの母を連れて避難しなければならない等の理由から、当面の食料と洗面具・寝具をかき集め、ながみねファミリーＹＭＣＡを避難場所として車中生活の開始となりました。

■ながみねファミリーＹＭＣＡは防災訓練を通して、生活用水の供給地と一時避難場所として、いざと言う時にその役割を果たすべく、地域自治体との合同訓練や、日赤県支部と防災協定を結んでいます。あくまで私的で指定外の避難場所ではありますが、横田委員長、中村館長はじめＹＭＣＡ職員共々少なくとも１週間は避難所としての機能を発揮しようと皆で決意し、被災者同志でもありながら共にこの危機を乗り越えよう奮闘しました。

■まさに小さいながらも何かの縁ある人々が助け合い精神で共助生活を始めました。自宅が危険で住めなくなった人もいましたが、大部分はトイレが使えず、余震が恐くて夜間の車中泊を求めて駐車場に集まって来た人々が大多数です。避難者は１週間で述べ 400 名近くになり、被災当初はさすが手持ちの食事も米飯中心でしたが、徐々に熊本市近隣の地域から窮状を知り、食料品・飲料水・生活必需品等のありがたい差し入れが届き始め、被災２日後の夜の食事には総勢 100 名を超える夫婦や子ども連れ家族、赤ちゃん連れ、お年寄り夫婦等で仮設食堂（駐車場にテントを数張り）は一杯となる盛況（？）でした。これまで会ったこともない目の前にいる幼児連れの若夫婦が安心した表情で温かい夕食に舌鼓を打っている様子や、高齢者を抱える家族の皆様が安堵した表情で、炊き出しの温かい夕食をとられる姿に、思わずこのような試練の中にさえ主が共におられることへの感謝の涙で目頭が熱くなりました。大げさですがＹＭＣＡの願いのなかで唱えられる「ＹＭＣＡは、子ども、家族、地域社会を育み、共に支えあう社会作りを目指し、ボランティアによって運営されます。」の文言の意味を改めて心深く刻むことが出来た体験でした。

■共助目的の私設避難所も、多くの近隣住民

自主避難生活の写真は、
ながみねＦＹＭＣＡから
送ってもらいました

平成28年熊本地震　体験記

の人々への生活用水（主にトイレ）や非難食提供、駐車状提供、送迎バス解放による宿泊施設提供、医療支援（小生が医師であり延べ６人の患者さん（？）の医療相談治療に貢献できました）などに対して、横田委員長をリーダーに中村館長、桑原副館長、木村部長などのスタッフ、ひがしクラブ・田上会長はじめ、食事提供に尽力いただいたひがしクラブメンバー、多量のハムや生鮮肉提供をしてくれた阿蘇クラブ・藤本義隆ワイズ、在熊ワイズメンズクラブ、わがＤＢＣの京都めいぷるクラブ、救援物資提供のルーテル玉名教会の皆様、八代社協関係の方等、各災害ボランティ団体の皆様に深謝致します。お陰で共助避難生活も終わりに近づく頃は、センター内には、飲料水、食品、救援物資も充分となり、被災者の顔にも笑顔が甦り始めたのです。

■しかし、避難生活も１週間になろうとするころ、トイレ使用願い被災者の中に腸炎症状者が出始め、衛生的に見てもそろそろ避難生活も限界にきたと判断され、４月 21 日（木）夕刻に横田委員長による、「ながみね自主避難所」閉所宣言にて、試練と学びの貴重な１週間の避難生活の幕を閉じた次第です。

■この１週間、多くのことを実体験を通じて人生観が変わるほどの多くを学ばせていただきました。防災拠点としてのながみねファミリーＹＭＣＡの本当の働きとは何か？　（５年前の東日本大震災の前の月に、ある地震学者の明治 20 年代に熊本地方でも多くの死者が出た地震の周期からすると、この地でも近い内に直下型地震が来ないとはいえないとの言葉に、半信半疑ながら、長嶺地区でも災害に備えるために防災防犯の意識を住民に高めようと始めたのが、「防災フェア」で、2011 年以降毎年開催）、自助・共助・公助とは何か、ＹＭＣＡとは何か？ＹＭＣＡが言うともに生きる社会とは何か、共に痛みを分かち合う社会とは何か、愛と奉仕の生き方を目指すとは何か？　等です。この点は別の機会に改めて皆様と意見交換の場を持ちましょう。

■電気、水道、ガスが復帰した我が家に戻り、一息入れたところで遅ればせながら、被害甚大な益城町を訪れました。途中の震度７の激震で倒壊した民家や商店街、歪んで地割れした道路、交通規制、役場の惨状、被災者の群れなどを眼のあたりにし、言葉を失いました。これからの被災者の皆様の生活復帰に少しでもＹＭＣＡがお役に立てればと思っています。

■また個人的には５月１日、田上会長を筆頭にひがしクラブの力自慢、腕自慢のメンバーの支援で、個人ではどうすることも出来なかった重量物移動、大型家具搬出、被災ゴミ出し等に我が家にご参集くださり、精を出していただいたことに、改めてワイズの連帯の温かさを感じ、感謝と涙でした。

■最後に、今回の熊本震災で亡くなられ多くの犠牲者の皆様に深く哀悼の意を表しつつ、残された人々の一日も早い再建復興を期して、緊急報告の筆を置きます。

「この世ではわたしたちは大きな事業を成し遂げることは出来ません。わたしたちにできることは大きな愛をもって小さなことができるだけなのです。」マザー・テレサ

（５月２日　　菅　正康）

1週間踏ん張り、4月21日に閉所式

ＹＭＣＡサービス＆地域奉仕事業

防災まつり 2016

３月 27 日、今年で５回目を迎えた、“防災まつり 2016"が、晴れ時々曇りの空で少し肌寒さが残るなかで開催されました。ながみねファミリーＹＭＣＡの年間イベントとしてだいぶ定着化してきており、参加者人数も年々増加して今年は約 250 名の来場者がありました。

防災まつりは、校区自治会との幾度も協議を重ね、毎年内容を充実を図ってきました。昨年から、熊本県立大学の協力監修により、災害を想定したテーマを様々な体験をするスタンプラリー方式で行われ、展示のすべてを体感、体験できるものとなっていました。消火器・消火体験、起震車の地震体験、ロープワーク、避難所体験、物干し竿・毛布を使った簡易担架での搬送体験と救急法、パトカー試乗、日赤車両・災害時の状況を写したパネル展示、パトカー試乗、NTT災害用伝言ダイヤル１７１利用体験をまわりながら、「まなべる・あそべる・体験できる」面白い企画となっていました。

その他に、避難食として熱々の豚汁・アルファー米･乾パン試食、１００円食バザー、スーパーボールすくい、お菓子のつかみ取りもあり大盛況でした。

また会場には、託麻南８町内自治会の方々が防災への願いが込められた「防災案山子」が展示されるなど、YMCA と校区自治会が益々一体となって、防災への関心と意識の向上が図られてきたことが伺われます。毎年継続して行くことで、近隣校区へも広がり行くことを期待します。　（３月 31 日　門永充弘）

起震車に乗って地震体験

共催：ながみねファミリーＹＭＣＡ
　　託麻南校区８町内自治会自主防災クラブ
　　熊本ひがしワイズメンズクラブ
協力：熊本東区役所　熊本県立大学
　　熊本東警察署託麻交番
　　熊本市消防局東消防署小山出張所
　　日本赤十字社熊本県支部
　　ＮＴＴ西日本熊本支店

ＹＭＣＡ通信

連絡主事　**中村賢次郎**

【自主避難所閉鎖後の近況】

ながみねファミリーYMCAの状況についていつもお世話になります。皆様方のご家族、お自宅等の被害はいかがだったでしょうか。お見舞い申し上げます。

現在のながみねファミリーYMCAの状況です。地震による影響で、ガラス、壁、天井などの破損があり、業者による補修工事が必要です。5月9日までは休館の予定です。スタッフでできる範囲で片付けを行っています。

参加者には益城の方もおり、被害を受けていらっしゃる方も多くいます。また県外へ避難されている方も多くいます。ながみねとしては、避難所、生活用水の提供などは一旦終了し、後方支援として物資の提供やスタッフの派遣を行っています。また今後地域の子どもたちや高齢者向けのケアプログラムを計画中です。

以上簡単ですが現在の状況報告です。皆様方におかれましても、安全と健康が守られますようお祈りしております。（4月 25 日）

３月 27 日開催の「防災まつり 2016」
防災、安全への願いを込めた「防災かかし」

良く生きる

共に寄り添い、支え合おう

歌野 清三

誰しも人生において経験したことのない大地震が起きた。専門家に「常識が通じない」と言わしめた地震が、我が熊本を揺さぶっている。

４月14日（木）夜の震度７の地震が実は前震で、収束を期待しながら余震を警戒していた次の晩に襲ったのが余震ではなく本震だった…。自然の猛威が人智を超えることを改めて思い知らされ驚く。

発生から２週間、非難生活の方も減ってはいるが、長期化する方もかなりになりそうだ。不自由な生活や車中泊続けている方々の健康や精神的な疲労が懸念される。

被災自治体ではボランティアの受け入れも始まり災害支援ボランティアの活動も本格化しつつある。阪神淡路大震災や東日本大震災で積み重ねた経験を生かし、被災者に寄り添い、共に支え合い、励ましていただきたい。ボランティアは自己完結、自己責任が原則といわれる。自らの志を生かすには、十分な準備が必要で、安全確保のためボランティア活動保険に入ることも求められる。災害が起こると現地に駆けつける光景が自然にみられる。これまで蓄積されたノウハウや培った視点を十分生かしてほしい。支援は今だけでなく、長期的になる可能性もあるので、息の長い支援活動と考え、現地には行けない人にとっても被災地の力になれることもあるので、支え合うことを考えたい。

熊本ＹＭＣＡでは、全国ＹＭＣＡから専門スタッフの応援をいただき。避難所運営など総力をあげ、緊急支援、募金活動などに取り組んでおり、ワイズもそれぞれの立場で支援活動にあたっておられる様子が伝えられている。長期的視野に立って、力を合わせて、きめ細かい支援活動を展開できるように、共に頑張れるように願っています。（４月27日）

５月以降の予定

５月10日（火）５月例会
19：00　東部ＹＭＣＡ２階教室
５月11日（水）熊本連絡会議
19：00　東部ＹＭＣＡ
５月21日（土）　第二例会
17：00　ながみねファミリーＹＭＣＡ
６月６日（月）６月例会
19：00　熊本テルサ（予定）
６月18日（土）第二例会
17：00　ながみねファミリーＹＭＣＡ
６月25日（土）～26日（日）
ワイズメンズクラブ第19回西日本区大会
松下ＩＭＰホール＆ホテルニューオオタニ

ハッピーバースディ＆アニバーサリ

5月バースディ

13日 東　菜保子　　16日 岩崎　亮磨
23日 菅　　正康　　24日 馬場　淑之
24日 岡村　英司
５日 横田　治美　　12日 加藤喜美代

5月アニバーサリ

９日 吉本敬一＆照恵
22日 菅　正康＆美代子
31日 白木尚登＆実希子

５月強調月間　リーダートレーニング

リーダーシップなくしてリーダーに非ず！
クラブ、部、区、あらゆる機会に学びの場が存在します。そんな機会を有意義に捉える事が、スキルアップであり、ワイズダム拡大の礎です。
楽しみましょう！

ワイズリーダーシップ開発委員長
船木 順司（京都トップス）

1　いざ立て　心あつくし　手を挙げ　誓い新たに
　　われらのモットー守る　ふさわしその名ワイズメン
　　絶えせず　めあて望み　この身を捧げつくさん
2　歌えば　心ひとつに　ともがき　ひろがりゆきて
　　遠きも近きもみな　ささげて立つやワイズメン
　　栄えとほまれ豊か　まことは胸にあふれん

なごりはつきねど　つどいは果てぬ
きょうひとひのさち　しずかに思う